

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ヒューリック福岡ビル建替計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.40		-		2.9
1 音環境				3.6	0.15	2.9	1.00		3.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				4.6	0.40	2.9	0.40		
1 開口部遮音性能		事務所、ホテルとも建具性能 T-2を採用		5.0	0.83	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	0.17	2.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	1.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境				2.7	0.35	2.6	1.00		2.7
2.1 室温制御				3.3	0.50	3.0	0.50		
1 室温				3.0	0.39	3.0	0.57		
2 外皮性能				3.0	0.24	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性		各ゾーン毎に細かく空調を設定		4.0	0.37	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				2.7	0.25	2.8	1.00		2.7
3.1 昼光利用				3.0	0.36	3.6	0.30		
1 昼光率		ホテル階昼光率:3.313%		3.0	0.54	4.0	0.60		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.46	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				2.0	0.27	3.0	0.30		
1 昼光制御				2.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.14	1.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.23	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.1	0.25	3.2	1.00		3.1
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気				3.4	0.30	3.6	0.38		
1 換気量		30m3/h人 以上の換気量を確保		4.0	0.44	4.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	0.12	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		外気取り入れ方位に配慮し、給排気は6m以上離隔		3.0	0.44	4.0	0.33		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.22	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.78	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.3
1 機能性				3.3	0.40	3.9	1.00		3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.5	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	0.12	3.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応		高速WiFiを設置し利便性に配慮した		3.0	0.12	4.0	0.50		
3 バリアフリー計画				3.0	0.77	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.2	0.30	4.5	0.40		
1 広さ感・景観		ホテル階 宿泊部 天井高さ2.5m以上確保		2.0	0.16	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.12	-	-		
3 内装計画		内装計画の段階でインテリアパスによる検証をしている		5.0	0.72	5.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.6	0.30	-	-		3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				4.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法で定められた25%以上の耐震性を有する		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		制振構造を採用し、内部設備保護を図っている		4.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトはガルバリウム鋼板		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		地下ピットには、汚水・雑排水槽を設け又、雨水・雑排水を利用して		4.1	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電設備設置又、電気室は中間階に設置し浸水対策をして		4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.4	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			4.2	0.13	1.8	0.50	
1	階高のゆとり	ホテル階以外の階高4.2m以上	5.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.13	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.8	0.73	-	-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		通りの連続性を意識した建物デザインとし、又、壁面緑化を設置	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率43%、室外機のほとんどをGL+10m以上の位置に設置	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPI _m] = 0.95	3.2	0.20	-	-	3.2
2 自然エネルギー利用		オフィス外装サッシからの自然換気システムを採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.85	2.7	0.50	-	-	2.7
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水		節水器具採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用をしている	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水等を利用している	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床:ビニル系床材、壁:せっこうボード、天井:吸音材料	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装:軽鉄(LGS)+ボード仕上、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤	窒素消火設備を利用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつ、GWPが低い発泡剤を用いた断熱材を使用	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が参照値の95%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	雨天時でも車両が濡れない屋内駐輪場	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	